令和５年度　世羅町立世羅小学校教育研究計画

１　研究主題

「主体的に自分の考えを持ち，表現する力を身に付けた児童の育成」

～世羅小授業モデルを基本とした全員参加の授業づくりを通して～

２　主題設定の理由

（１）今日的教育課題から

これからの社会は，絶え間ない技術革新に伴い，様々な変化が起こる予測不能な時代である。こうした潮流の中で，従来は自然に身に付けてきたコミュニケーション能力の低下等，児童の社会的資質・能力の希薄化が懸念される。また，多様な文化と価値観をもつ人々と出会い，共に社会を形成していかなければならない時代である。こういった時代の中をたくましく生き抜き，新たな価値観を創造するためには，様々な人と協働し繋がり合う中で，自分の考えを明確に持ち，自分の言葉で主体的に表現する力が必要となる。

（２）学校教育目標の具現化から

本校では，「自ら考え，自ら学ぶ児童の育成」を学校教育目標に掲げた。この目標を具現化するために，「主体性」「表現力」「自らの自信」を育てたい資質・能力として設定し，児童に関わっていく。その中でも，表現力の育成を重点として指導を進めていきたい。自信を持って自分の考えを表現し合うことを通して，さらに自らの考えを広げたり，深めたりすることにつながると考える。児童が他者との関わりの中で，自信を持って自分の考えや思いを表現するためには，それを支える基礎・基本の知識や技能や，「わかった」「できた」という成功体験から得た自信が大きな支えとなるだろう。

今年度，算数科の指導を通して，児童の思考力を支える基礎学力の定着を目指す。そのためには，教員の授業力向上が必須条件である。そのために，まず，教員が共通の授業スタイルを持つという基盤を作り，その上で児童の学びを保障することを進めたいと考えた。さらに，基礎・基本を反復練習する時間や，適用題まで確実に終わらせるタイムマネジメント，そして児童の主体性を引き出し，教科の本質に迫る単元づくり等の指導技術の向上を図っていきたい。

以上のことを目指し，全員参加の授業づくりをするためには，教員が共通の型（世羅小授業スタイル）を持つことが有効であると考えた。また，特別支援教育の考え方も積極的に取り入れ，世羅小授業モデルをよりよい物に進化させていきたい。

（３）本校の実態から

昨年度の児童アンケート，「自信を持って自分の考えを相手に伝えることができる。」の項目では，76％の児童が肯定的な回答をした。併せて行った教職員のアンケート，「授業中，積極的にペア・グループ活動等を取り入れている。」の項目では，肯定的評価 90％以上という結果になっており，児童・教職員の対話的な学習に対する関心が高まっていることが分かる。しかし，その反面，昨年度行った標準学力調査（東京書籍）において，特に算数科の基礎・基本の知

識，技能の定着に課題があることが明らかになった。この結果から，児童に身に付けさせるべき力を授業の中で確実に指導し切れていないという点が課題として見えてきた。

これまで取り組んできた，「ほめて・認めて・励ます」指導を土台として，基礎・基本の学力の定着を図り，さらに児童一人一人の主体性を伸ばす研究を進めていきたい。

以上の点をふまえ，本研究の仮説を次のように設定した。

３　研究仮説

全教員が授業の型を身に付け，全員参加型の授業づくりを行えば，主体的に自分の考えを持ち，表現する力を身に付けた児童を育成することができるだろう。

４　研究の視点

世羅小授業モデルを軸にした授業づくりをする。（個別最適な学びの視点を入れた全員参加型の授業づくり）

世羅小授業モデル			
把握する	導入	展開	終末
世羅小授業モデルのこだわり			
【児童の実態】 ・個別の指導計画作成 ・学力調査の分析	【つかむ】 ・めあて，課題の設定 ・手立てを交流し，見通しを持つ。 ・立場を明確にする。	【学び合う】 ・自力解決で考えたことを交流・発表する。 ・意見交換の時間を設ける。	【できる，ふり返る】 ・適用題を解く。 ・本時の学びをまとめ，ふり返る。
	対話による自己表現・他者受容		
ICT 活用			
子どもの姿			
	○全員が書いたことを基に，表現し合っている。	○全員が自信を持って発言しようとしている。	○全員がふり返りを書いている。
『ほめて，認めて，励ます授業』			

（１）個別最適な学びの視点を入れた授業づくりをする。

①算数科において，単元ゴールを共有し学習計画を子どもと作り，個に応じた学習課題を作る。

②ICT を効果的に活用する。

・教材を効果的に提示する。

・スタディーネットを活用した授業を行う。

・e ライブラリを活用した，個別学習を積極的に取り入れる。

（２）表現し合う場の設定をする。（対話の場面づくり）

①導入，展開，終末の全ての授業展開の中に位置づける。

・導入：めあてを受けて，課題解決の見通しを交流する。

・展開：自力解決で考えた自分の意見を基に交流をする。
学び合い，教え合う。

・終末：適用題で確認の後，ふり返りを全体交流し，学びの価値の深化を図る。

②自力解決、集団解決は教科，教材に応じて柔軟に位置づける。

③「しゃべる，質問する，説明する」（対話の基本の型）を指導する。

・しゃべる＝何か必ず話す。　説明する＝質問に答えたり，詳しく伝えたりする。
自由対話（自由な立ち歩きのある対話※立ち歩きは発達段階に応じて取り入れる。）を導入し，いろんな人と交流させる。

⑤友達の意見をノートにメモさせる。

・友達の意見は，色鉛筆または色ペンでメモする。

（３）活用の場を設ける。

①本時で学習した力を活用させ，適用題を解かせる。

②前学年，前時の学習との系統性を意識した学習問題を解かせる。

（４）ほめて，認めて，励ます。

①児童の積極的な姿を写真に収め，学級の行動目標として掲示をする。（価値語モデル）

②授業規律，学びに向かう姿勢を５分の１の黒板等を活用し，徹底的にほめて，認めて，励ます。

以上４点を世羅小学校授業モデルとし，算数科のみならず全ての教科・領域で実践する。

５　研究を支える指導

（１）ほめて・認めて・励ます指導

・全学級で「ほめ言葉のシャワー」,「価値語モデルのシャワー」に取り組み，人を大切にする心を育む指導をする。

・成長ノートを使って，児童一人一人の変容を丁寧に価値づけるようにする。

ほめ言葉のシャワー

価値語モデルのシャワー

成長ノート

5分の1の黒板

（２）温かい人間関係を育む指導

・帯タイムに，児童のコミュニケーション力を高める学級づくりタイムに取り組む。

（３）個の実態に焦点を当てた指導

・全学級が個に焦点を当てた個別の指導計画（生徒指導部）を作成し，実態に応じた授業づくりをする。

・学びタイム，補充タイムで基礎・基本の学力定着を図る。

６　検証の視点

・１月に実施する「標準学力調査（東京書籍）」の算数科で，全ての学年が全国平均値を上回る。

・１月に実施する「標準学力調査（東京書籍）」の算数科で，前年度との経年変化比＋１ポイントを全ての学年が達成する。

・１月に実施する「標準学力調査（東京書籍）」の算数科の無答率を 3.5%以下にする。

・教師アンケート「世羅小授業モデル」を基にした授業の実施率 100%を目指す。

・児童アンケート「授業の中で『わかった。』『できた。』と感じることが増えた。」の肯定的評価 90%以上を目指す。

・児童アンケート「先生や友達は自分のことを認めてくれる」「私は，友達をしっかりとほめて，認めて，励ましている。」の肯定的評価 90%以上を目指す。

・ＱＵアンケートで，各クラスの８割の児童が満足群に属している。